

議長（茅根猛君） 日程第1，一般質問を行います。

昨日に引き続き，通告順に発言を許します。

9番深谷秀峰君の発言を許します。

〔9番 深谷秀峰君登壇〕

9番（深谷秀峰君） おはようございます。通告に従い，私の一般質問をさせていただきます。

まず初めに，特産品の開発についてお尋ねをいたします。

特産品の開発は，村おこし，町おこしが盛んに叫ばれていたころから地域活性化の1つのキーワードと位置づけられておりました。全国各地でその地域の野菜や果物などの農産物，魚介類などの海産物，肉類や乳製品，それらを使った郷土料理や加工品，工芸品や民芸品など，いろいろな分野でさまざまな取り組みがなされ，その中には大ヒットしたもので，一過性で終わってしまったもの，全くの失敗に終わったものなど，試行錯誤を繰り返し現在に至っております。本市においても，合併前より旧市町村でそれぞれ独自に特産品の開発には力を入れてきました。現在，それらの特産品はどの程度生産されているのか，対外的な認知度は上がっているのか，地域の産業の活性化につながっているのかどうか，そういう観点から質問をさせていただきます。

特産品と一概に言ってもいろいろな分野，種類があるので，今回は野菜や果物，乳製品などの加工品分野での特産品開発に限定して，次の2点についてお尋ねをいたします。

まず1点目は，これまで市内各地域でJA茨城みずほや各種団体，個人で取り組まれてきた農産物加工品で，特産品と位置づけられている物にはどのような物があって，その生産，販売の状況は現在どのようになっているのか。あわせて今後の課題についてはどうとらえているのかについてお聞きいたします。また，より質の高い農産物の加工品製造については，施設の充実を図ることは言うまでもなく，現在の加工施設の稼働を高め，生産性を上げるにはどのようにしていかなければならないのか，新たな加工施設の整備等も含めて今後の取り組みについての考えをお伺いいたします。

次に，観光事業の振興についてお聞きいたします。

観光イベント等の集客数の推移と課題については，昨日の菊池議員の質問に対する答弁で了解をいたしましたので，ここでは新たな観光資源の発掘と情報発信の強化についてお尋ねをいたします。

市内の主な観光地としては，西山荘や竜神大吊橋，里美牧場などが挙げられますが，その集客についてはこれまでもさまざまな取り組みがなされてきてはいるものの，なかなか大きく伸びないのが現状でないでしょうか。その一方，新緑や紅葉のシーズンのハイキング客や常陸秋そばを食べるためにはるばる遠方より訪れる人，寺社仏閣，巨樹，古木などにいやしを求め訪れる人など，趣味の多様化や余暇の使い方によっていろいろな観光スタイルが生まれてきているとも言えます。

観光資源の重要な要素として，「見る」「遊ぶ」「食べる」とよく言われますが，この観点から市内にあるまだ十分知られてはいないものの，仕掛け方，演出次第では観光資源になり得るものをどうやってこれから探し出していくのか。また，それらを新聞やテレビ，ラジオなどのメディア

の活用も含め、どのように情報発信していくのかについてお尋ねをいたします。

例えば言えば、今はやりのパワースポットやB級グルメ、フィルムコミッションのような形になるとと思いますが、既存の観光施設や各種イベントとあわせて上手に演出していけばおもしろい効果が期待できると考えますが、この点についてもお尋ねをいたします。

また、情報発信の強化としては、茨城空港の開港に合わせて、関西方面や韓国など海外からの観光客誘致についても県や関係機関と協力してのPR方法等を考える必要が出てくるとと思いますが、この点について今後どのように取り組んでいくのかお尋ねをいたします。

次に、ふるさと農道整備事業についてお聞きいたします。

里美地区小妻町のふるさと農道整備については、2年前に当初予定されていた幅員7メートル、延長6,200メートル、総事業費28億8,000万円の2車線道路建設計画が、940メートル完成した時点で事業自体の大幅な縮小により、当初の計画から現道の拡幅工事へと大きく変更された経緯があります。当時、笠石集落の人たちの落胆と怒りは大変なものでした。そして代替案として示された現道の拡幅工事が現在進められているところですが、本当に残された期間内で完成するのかという心配の声も聞かれております。そこで、これまでの工事の進捗状況と今後の計画についてお尋ねをいたします。

また、2年前の代替案が示された地区説明会で出された意見として、アクセスする県道上君田小妻線は、非常に道幅が狭く普通車がすれ違うのもままならない状況や冬季間の凍結のため、ぜひとも待避所を数カ所設けてほしいということがありました。そこで、今後の待避所設置の工事予定についてもどのようになっているのか、この点についてお尋ねをいたします。

以上、ご答弁をお願いいたします。

議長（茅根猛君） 答弁を求めます。産業部長。

〔産業部長 江幡治君登壇〕

産業部長（江幡治君） 初めに、特産品の開発についてのご質問にお答えをいたします。

現在、市内には農産物の加工品としましてJA茨城みずほの飲むヨーグルト、ジェラード、梅ゼリー、梅ジュースなどのほか、各種団体等が生産する常陸大黒の煮豆、青大豆の豆腐、漬物、わら細工などがございます。しかし、生産、販売ともにそれぞれの生産者の考え方や目標が大きく異なっておりますことから、その状況を比較、検討することは大変難しいものとなっております。

農産物の加工につきましても、農産物を販売したり原料として供給するだけではなく、農家自らが、または商工業者と連携をしまして加工販売に取り組むことにより、そこから生じる付加価値を農業経営の中に取り組むことによりまして、農業者の所得向上につながる大切な方法であると考えております。

しかしながら、加工品の製造販売には、施設や設備の整備に当たって保健所の許可、あるいは専門的な技術、さまざまな制約がございます。こういった面から取り組みがなかなか進まないのが現状でございます。このため、現在加工品の製造にかかわっている方の規模、拡大が図られるとともに、新たな加工品の開発に取り組む体制づくりが進みますよう、材料となる農産物の生産

や加工施設の整備，加工に必要な技術の支援などを積極的に行うとともに，製造されたものが常陸太田の魅力を発信し，ブランド化の推進ができるよう努めてまいりたいと考えております。

次に，新たな観光資源の発掘と情報発信の強化についてのご質問にお答えをいたします。

観光資源や地域資源であります，常陸秋そばなどの食べ物も大切な資源であると考えております。このような考え方から資源を要素別に分けてみますと，「見る・遊ぶ」では52，「食べる・買う」では42，「いやす・遊ぶ」では21，「つくる・体験する」では32。このように重複するものもございますが，140余りの資源があると考えております。

特に地域資源につきましては，新たな観光資源に磨き上げ，既存の観光資源と組み合わせることにより新たな魅力を創出する必要があると考えております。そのためには，議員のご発言にもございましたように，パワースポットとしての演出や映画撮影に使われた建物，風景，こういったものを既存の観光施設や地域資源と組み合わせ，利用者が選べる選択型の体験観光メニューの開発など新たな視点で話題性を持たせられるような商品開発も必要であると考えております。

情報発信につきましては，観光物産協会と連携をしまして開発した商品を旅行業者に売り込みを図るとともに，マスメディアや旅行情報誌などへの一層の情報提供を行うなど，その強化に努めてまいりたいと考えております。また，関西や韓国などからの観光客誘致のPRにつきましては，茨城県，それから茨城県観光物産協会，漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会，こういったものがございまして，これらの関係機関と連携をしまして積極的に取り組んでまいります。

次に，ふるさと農道整備事業の進捗状況と今後の工事計画についてでございますが，この事業は現在第2期分としまして，平成20年度から24年度までの5カ年で，県道上君田小妻線から笠石集落までの延長2,550メートルを総事業費3億円で計画しているものでございます。

進捗状況であります，昨年度末までに延長496メートルが完了しまして進捗率は19.5%でございます。本年度397メートルが完予定となっておりますので，今年度末の進捗率が35%となる見込みでございます。

これまでの施工区間につきましては，用地買収及び物件補償を伴う拡幅工事等でありましたので進捗率が低いものとなっております。来年度以降の区間につきましては，大部分が現道の舗装改修等の工事でございますので，平成23年度，24年度の2カ年で残り1,657メートルの整備を完了する予定でございます。今後につきましては計画どおり事業が完了しますよう茨城県とさらなる連携を図ってまいります。

議長（茅根猛君） 建設部長。

〔建設部長 菊池拓夫君登壇〕

建設部長（菊池拓夫君） ふるさと農道整備事業についてのアクセスする県道の待避所の設置についてお答えします。

このことにつきまして，県では一般県道上君田小妻線の国道349号から笠石集落入り口まで約2,300メートル区間に待避所2カ所を設置する計画で進めております。このうち1カ所については，現在国道349号から高萩市方面に約600メートルの箇所にて工事を実施しております，来年1月下旬に完成する予定とのことでございます。残る1カ所につきましても待避所が整

備されることにより車両のすれ違いがスムーズになり安全が確保されることから，早期に着手し完成するよう県に要望してまいります。

議長（茅根猛君） 9番深谷秀峰君。

〔9番 深谷秀峰君登壇〕

9番（深谷秀峰君） 再質問をさせていただきます。

まず，特産品の開発について再質問いたします。特産品の開発と簡単に言ってみたものの，そうやすやすといかないことは重々承知しております。大企業でさえ1つの商品開発に膨大な量の調査研究，そして資金をつぎ込み，それでも大ヒットするのはまれだと言われております。そうしたことを考えた場合，JA茨城みずほが里美地区で生産しているジェラードや飲むヨーグルトなどの乳製品は，数少ないヒット商品だと言えるのではないのでしょうか。ここ3年間の販売実績を見ると平成19年度が約9,100万円，20年度が9,200万円，21年度が9,600万円と年々実績が伸びております。

思い返せば，このきっかけになったのは，旧里美村当時，ある会議の席に酪農家の奥さんが手作りのヨーグルト持ってきたことが発端だったと記憶しております。当時は乳価が低迷し，せっかく搾乳した生乳を泣く泣く廃棄していた背景がありました。こういう商品開発もできるんだよという提示だったと思います。それを行政と農協がタイアップして今の商品に結びつけたというわけであります。

現在，市内で運営されている直売所5カ所の昨年度売り上げ総額は，約6億2,600万円で，このうち生産者が加工品として持ち込むのは約9%しかないというのが現状であります。そこで，今後ブランド化が図られるような特産品開発のためには，JAや商工会，民間の商工業者，商品開発のノウハウを持った専門家などと連携が欠かせないと思いますが，これまでの取り組み，そして，今後具体的に協議を進めていくためのプロジェクトチーム等の結成についての考えはあるのかどうか，この点についてお尋ねをしたいと思います。

次に，観光事業の推進について再質問いたします。

市民協働の観点から言えば，今幾つかの町会で行っておりますエコミュージアム活動の一環の地域のお宝探し活動などもこの中で新たに発見された観光資源として結びつく可能性もあるのではないかとと思いますが，関係各課と協力体制，そして地域の人たちとの連携については，今後どのように進めていくのかについてお尋ねをしたいと思います。

以上，2点を再質問いたします。

議長（茅根猛君） 答弁を求めます。産業部長。

〔産業部長 江幡治君登壇〕

産業部長（江幡治君） 再度のご質問にお答えをいたします。

初めに，特産品の開発についてであります。今後の特産品の開発に当たりましては，先ほど申し上げましたように，行政として市内の産業振興という面から関係部課が横断的な連携を図りまして，特産品の開発並びに販売への支援体制づくりに積極的に推進してまいりたいと考えております。

次に、観光事業の推進につきましては、エコミュージアム活動により発見され、磨き上げることにより観光資源となり得るような地域資源につきましては、文化課を初めとする関係各課との連携を図り、情報を共有化することによりまして町内の体制を1つにし、市と地域が一体となって資源を磨き上げることができるような連携を図ってまいりたいというように考えております。

議長（茅根猛君） 9番深谷秀峰君。

〔9番 深谷秀峰君登壇〕

9番（深谷秀峰君） 最後に1点要望させていただきます。

現在、市内5カ所の直売施設で販売されている物産のうち、地元の農家の人たちが持ちこんでいる農産物の割合は統計によると約2割、加工品にいたっては先ほど言ったように1割にも満たない状況であります。売る施設を計画すると同時進行というよりは、それに先んじて生産物の拡大や特産品の開発をしていくべきではないかと、そういう思いで今回質問させていただきました。これからは市内各地で特産品の開発に取り組んでいけるような施策展開をぜひともお願いしたいと強く要望をいたします。そして、昨日のお二人の同僚議員から質問があった複合型交流拠点施設の件でも、生産者や市民が不安を抱かないようなご答弁をぜひともお願いしたいと申し添えまして私の質問を終わります。ありがとうございました。